

やまのかたりべ

第64章 妙義山（金洞山（中ノ岳・東岳）から鷹庚し縦走）

秋口に（コレクション 2015年12月号第61章）表妙義の相馬岳に登った際、山頂で目にしたおもしろい形の表妙義、金洞山にも足を運んでみたいと思ったので2015年締めくくりはこの山にしようと決める。

12月23日 朝6時出発

途中睡魔に襲われる夫を、ロッキーの曲で盛り上げる。上信越自動車道を使い松井田妙義インターで高速を降りる。前回の妙義（相馬岳）の登山口を通り過ぎ中之嶽神社の近くにある駐車場に車を置く。資料では400台の車が駐車可能とあるが、週末だというのに駐車している車は10台もない…。今回も静かな登山となりそうだ。



（駐車場より妙義 中ノ岳・東岳）



（中之嶽神社鳥居 奥にだいこく様）

<ポイント1>

中之嶽（なかのたけ）神社、日本一のだいこく様（高さ20メートル・重量8.5トン）が祀られている。やる気、元気になるパワースポット。

だいこく様のお姿は木槌を持っているのが一般的だが当神社のだいこく様は剣を持つめずらしい姿で、病や厄、悪性を祓い福を招くと伝えられている。（詳細は妙義 中之嶽神社ホームページ参照。
<http://www.nakanotake.com/> ）



9時00分 登山開始

中之嶽神社参道から結構急な石段を登りつめると中之嶽神社社殿が現れる。中之嶽神社は轟岩を御神体としているため拝殿・幣殿のみで本殿を持たない珍しい様式とのこと。

金洞山へ行くには神社を正面に右の道を選択するのだがせっかくなので轟岩も見てこようと左の道へ向かう。歩いて数分で轟岩に到着。御神体と言うので祀られているのかと思ったら登る事が可能である。梯子は最後まで設置されている。地図上には危険、死亡事故ありと記載されているので岩頭に立つ際は気を付けて。

景色を一望し、社殿に戻り金洞山へと向かう。

（←長い石段 中之嶽神社へ）

見晴らし台までの道中は石畳、木道の階段で整備されている。登山道には大きな岩もある。妙義山らしい。

(見晴らし台までの登山道)



(見晴らし台より妙義の奇岩)



9時45分 見晴らし台到着

向かいの岩から大勢の人の声が響いている「まじ怖い!」「そっちから行けないの?」「無理無理無理無理無理……」みんな白い服を着用している。何かの催し物であろうか?

私の心配を外に、夫はお腹が空いたと言いながらのんびりエネルギー補充している。

見晴らし台から数分進むと石門分岐点に到着する。ここで金洞山と大砲岩へ行く道に分かれる。金洞山へ向かうコースは「一般登山者登山禁止」の看板が設置されている。我々は金洞山へ向かうコースへ。前回はヘルメットのみ着用だったが今回はハーネスも装備し、万が一の時に備える。

途中、上から二人の男性が下山してくる。危ないから引き返してきたと言う。お互いに気をつけましょうと声を掛けすれ違う。



(中ノ岳へ向かう道中)



(長い鎖場)



(上部の鎖場、小休憩可能)

岩場、鎖場、ロープが設置されている箇所を通過する。中ノ岳山頂手前には長い鎖場が現れる。

下から見上げて結構な登りである。二段に分かれており、下の鎖場は足と手が岩にかかりやすいが上段の鎖場になると足のかかる場所が難しく手の力に頼ることになる。



(中ノ岳山頂 雪をまとった浅間山)

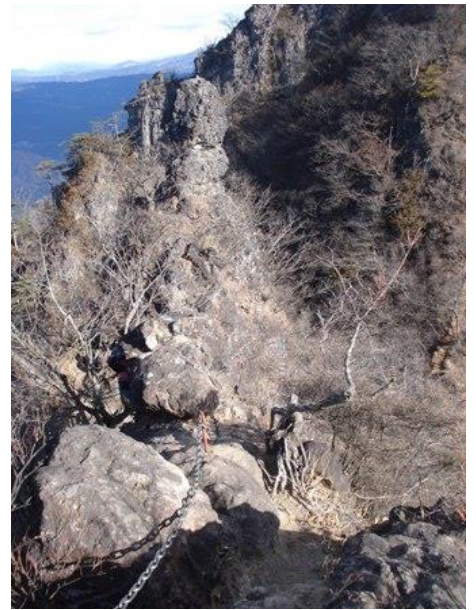
10時10分 中ノ岳山頂到着
登りつめると素晴らしい景色である。遠くに雪をまとった浅間山も一望できる。景色を楽しみながら小休憩する。

次の目的地東岳まで一度下る。まだまだ鎖場も続き、稜線の鎖場も出没する。高度感がすごい！足がすくむ箇所もいくつかある。慎重に進む。最初はグローブを装着して鎖を握っていたが、実際に自分の手で握っていないことが不安になり、片手は素手にする。こぶ岩というポイントから鎖場を登ると東岳に到着する。

(東岳山頂より)



(稜線の鎖場)



10時35分 東岳到着
こちらの展望も最高である。

この先も危険箇所は続く。
相馬岳と第四石門へ向かう分岐点を通る。
我々は相馬岳方面へ進む。
次に目指すは「鷹戻しの頭」。

11時35分 鷹戻しの頭
難所の鷹戻しの頭を通過すると梯子と数段の鎖が設置されている。

そして急な梯子が現れ「鷹戻し」と名付けられた岩場の鎖場へむかう。実際目にする、確かに鷹も止まって休憩しないであろうという断崖絶壁の鎖場である。ここで下から登ってくる男性1名とすれ違う。「いや～～、すごい山ですね～。登り堪えありますね～。」男性もハーネス、ヘルメットを装着、しっかりした装備である。



(←鷹戻し→)



鷹戻しに挑戦するが万が一の滑落を避けるため、カラビナとスリングを使用し、鎖にセルフビレーを取りながら下降する。この後も何度かセルフビレーしながら鎖場を降りる。

何度か緊張する場面をやりすごし、時間も 12 時をまわり空腹を感じ、女坂分岐前で昼食を摂る。テルモスに入れた暖かい甘い紅茶に気持ちがホッとする。
じっとしていると身体が冷えてくるので、早々に出発する。

12 時 50 分 女坂分岐到着

鎖のトラバースを通過し、しばらく行くと「ホッキリ」という分岐へ出る。前回登った相馬岳へ向かうコースと中間道向かう分岐点となる。我々はここから下山し中ノ嶽神社に戻る。

途中黒滝という箇所を通過するが、凍っているため大変滑る。鎖は設置されているが、通過する際はルートを見極めないと通過が難しい。
(軽アイゼンを持っていれば難なく通過可能である。)



その後第四石門まで木の階段、鉄階段とアップダウンを繰り返し進む。迫力ある岩庇の下を通過。この岩の下は金洞山直下を歩いているということになる。迫力満点の山歩きが続く。



13 時 55 分 駐車場到着。

前回の相馬岳より金洞山の方が腕の力が必要であり、難所が多く感じられる。
体力より腕の力がかなり消耗。明日は腕と肩の筋肉がパンパンになることだろう…。

2015 年最後の登山。天气に恵まれ、無事に下山でき感謝感謝で締めくくる。

2016 年も様々な山からレポート書かせて頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

(岩庇 金洞山直下)

9 時 00 分 中之神神社発
9 時 45 分 見晴し台着
10 時 10 分 中ノ岳着
10 時 35 分 東岳着
11 時 35 分 鷹戻しの頭着
12 時 50 分 女坂分岐着
13 時 55 分 駐車場着



文責:松田留美 同行者 松田次郎

(第四石門)